

パンプキン!

— 模擬原爆の夏 —

原作／令丈ヒロ子 脚色・演出／北原章彦
〔青い鳥文庫『パンプキン! 模擬原爆の夏』〕

キャスト

仲井ヒロカ
母
父
おじいちゃん
木南たくみ
駅員

スタッフ

美術／幡野 寛
照明／関 定己
音楽／永橋京子
音響／馬上真勝
衣装／劇団衣装部
方言指導／前田剛志



【原作者：令丈ヒロ子】

児童文学「若おかみは小学生!」は、講談社 青い鳥文庫から刊行されて、累計300万部をこえる大人気シリーズとなっています。「パンプキン! 模擬原爆の夏」は、2011年に講談社から刊行。2019年には青い鳥文庫版も出て、多くの子どもたちに読まれています。

作品内容

ヒロカは大阪に住む元気モリモリの小学校5年生の女の子。夏休みに、東京から同い年のいとこ“たくみ”が「自由研究」のために近所に住むおじいちゃんの家に来てきた。おじいちゃんは元高校の先生で、家には本がいっぱい。勉強少年のたくみとは大いに気が合っている。ふたりの話しを聞いているうちに、ヒロカはおじいちゃんの家を飛び出した――

白い雲が浮かぶこんな青い空から、かぼちゃみたいな大きな爆弾が落ちてきたんだ。むかし戦争があったってことは知っている。でもそれは自分には遠いことだと思っていた。だのに原爆をうまく落とすための練習で、あたしがアイスを買いに行くコンビニに落とされて、この町の人たちが死んだなんて、たくみとおじいちゃんの話聞くまであたしは知らなかった。なにも知らないままだったら、夏休み中であとどれだけアイスを食べられるかを数えたり、テレビを見たりして過ごしただろう。知る前の自分にはぜったいに戻れないのだ。『もう! 知らなくてエエことを知ってしもたやん! たくみのせいやで!』

知らなかった悔しさと“たくみ”への対抗心に火がつき、ヒロカは地下鉄に乗って大きな図書館に向かった。

「知らなかったことをもっと知りたい」図書館で集めた資料を持って、たくみと一緒に模擬原爆のことを調べ始める。

模擬原爆「通称：パンプキン」は、1945年8月9日に長崎に投下された原子爆弾と形は同じだが、核分裂反応を起こすためのプルトニウムが入っていない練習用の爆弾として製作された。パイロットは本物の原子爆弾を正確に目的地点に投下した直後に被爆を避けて急旋回をする操縦技術の訓練が必要だった。1945年7月20日から終戦の前日の8月14日にかけて日本全国に49発が落とされ、各地で多くの人々が亡くなった。